

北海道馬追丘陵キウス7遺跡で見つかった断層

千歳市街地から北へ10 kmの馬追丘陵で、遺跡発掘調査中に断層を発見した。地表より1 m下の、今から約3000年前の縄文時代後期の遺物が見つかった生活面までは変化がなかったが、その下位層である恵庭岳の噴火による火山灰層から下で変位が見られた。調査地ではこの恵庭a火山灰層を含めその下からは遺物が出土していないので、この断層は今回初めてその姿を人前に現したものである。(詳しくは本文40-42頁参照)〈北海道埋蔵文化財センター 西田 茂・地質調査所 北海道支所 羽坂俊一・北海道開拓記念館 小林幸雄〉



1. 縄文時代後期の人々が暮らしていた生活面。中央部に横に続く凹地(溝)が断層にあたる部分。凹地を挟んで両側に竪穴式住居跡がみられる。手前に見える住居跡のある面が少し低く、この時期までは断層が地形面に影響を与えていたと考えられる。



3. 恵庭a火山灰を遺跡の発掘と同様に、移植ゴテできれいに取り除いたところ。リアルな断層崖が観察できる。



2. 生活面直下の層厚2 mの恵庭a火山灰を粗く取り除いたところ。凹地ではなくて段差になっているのがわかる。



4. 断層の延長方向に直交するようにトレンチを掘削した。北から南の壁面を見ている。西落ちの正断層で、変位量は最大で約80 cmである。